

# LIBRARY

## 「ニュー・システムによる日本語」

海老原 峰子 著(現代人文社 2016)

「動詞の活用ってまとめて教えた方が効率的じゃない？」そんなことを思っていた私がある日出会ったのが本書。まさにそれを実践する画期的な学習法に基づいた日本語習得のための教科書です。文法シラバスと1課から20課までの構成で、中国語と英語による説明のほか、巻末に教師用のガイドがついています。

特に興味深いところは、特許を取得したという、動詞活用を50音と連動させて覚えさせる学習法や、最初の段階で、動詞の基本形(辞書形)や「ない形」、「ます形」と同時に「～んです」も教えるなど、これまでには例のない構成になっています。また、格助詞と「は」の説明が、シンプルかつスマートな理論によるもので、学習者が悩みがちな「は」と「が」の違いのひとつの解決を提案している点で評価できると思います。日本語を論理的に学習したい方にお勧めです。

「日本語をもっと簡単に、もっとわかりやすく教えるにはどうしたらいいのだろうか。」と葛藤する毎日ですが、一介の日本語教師がその答えに辿り着くのは容易くありません。日本語の主流な教え方に疑問を抱く時、これまで触れてこなかった教科書を手にとってみると、新たな発見に出会えることが面白いです。本書の内容は、「ぜひ読んで！」と万人にお勧めするような性格ではありませんが、日本語教師を目指し、養成講座で頭が「ガチガチ」になっている方は、まえがきの「理論」のページだけでも覗いてみると、「目から鱗」で何か得られるものがあるかもしれません。

